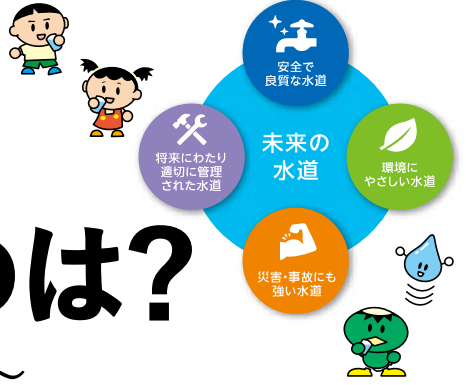


100年水道へむけて

求められているものは?

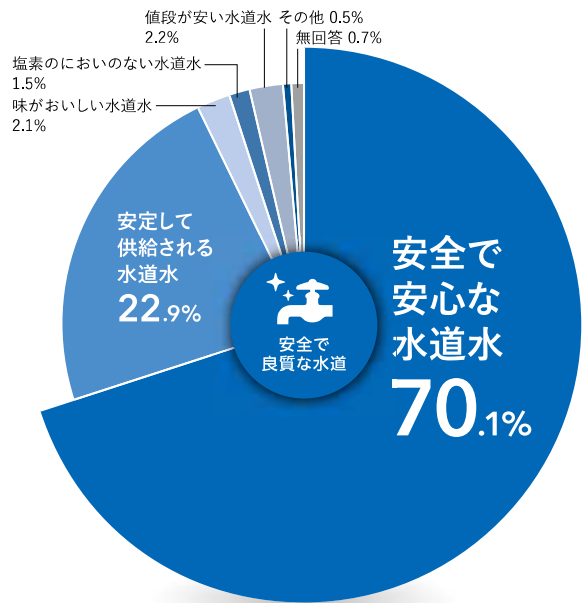
～意識調査から考える県営水道のミライ～



お 皆さまから信頼される事業運営を行うため、県営水道を使用されているご家庭及び事業所のお客さまに、水使用に関する状況や、県営水道の事業についての考えをお伺いする調査を実施し、2,294のご家庭のお客さまと577の事業所のお客さまからご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

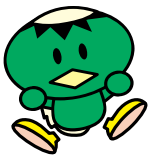
県営水道では、この調査結果をもとに、今後も信頼される事業運営に努めてまいります。

Q 水道水について何が一番大切だと考えますか。

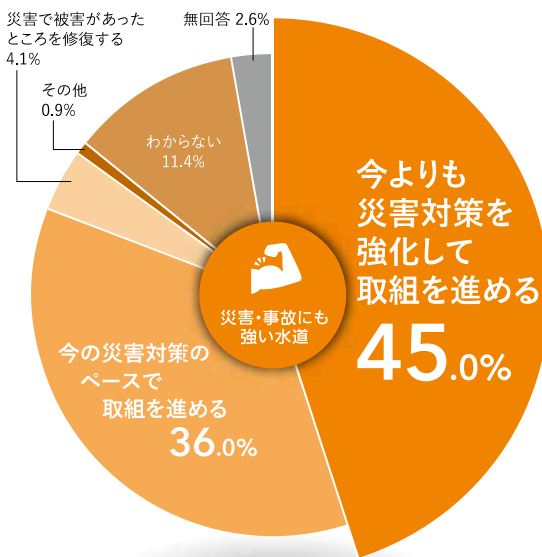


約7割のお客さまから「水道水は安全・安心であることが一番大切」とのご回答をいただきました。

約7割のお客さまが「水道水は安全・安心であることが一番大切」と考えているんだね。それでは、皆さまに安全・安心な水道水をお届けするために、県営水道ではどのようなことを行っているのか、うら面で見よう!

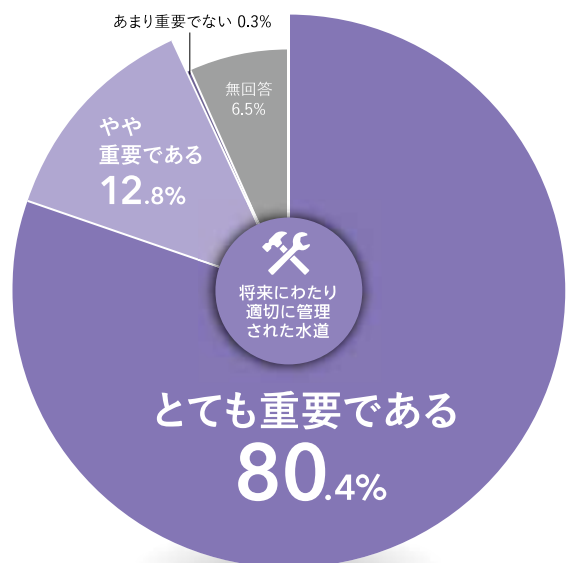


Q 今後の災害対策の進め方についてどう思いますか。



約4割のお客さまから「今よりも災害対策を強化して取組を進めるべき」とのご回答をいただきました。

Q 老朽化した水道管の更新についてどう思いますか。



約9割のお客さまから「老朽化した水道管の更新は重要である」とのご回答をいただきました。



Check!



“あんぜん”で“あんしん”な水道水のために

県営水道では、皆さまがいつでも安全・安心な水道水をご使用できるように、水源からじゃ口まで一貫して水質管理を行っています。ここでは、水源からお客さまのじゃ口までの各工程でどのようなことを行っているのかを紹介します！

Check! 1

日々変わる原水を毎日確認



▲水源(相模湖)の航空写真

原水(浄水する前の川などの水)の水質は、降雨による濁りや、水源(湖や川)で発生する植物プランクトンなどにより日々変化しています。植物プランクトンには、ろ過池の詰まりや水をかき臭くする原因となるものがあるため、浄水場の処理や水道水の水質に影響が出ないように、原水の水質を連続監視装置、分析機器、顕微鏡などで毎日確認しています。



Check! 2

原水から“あんぜん”に飲める水へ

浄水場では、川などから取水した原水を、浄水処理(凝集沈殿・ろ過・消毒)し、各処理工程で水質管理を行っています。水道水の消毒には塩素剤(次亜塩素酸ナトリウム)を使用しています。塩素剤は消毒効果が高く、その効果が持続するため、浄水場から離れた場所にあるお客さまのじゃ口まで、安全な水道水をお届けすることができます。



▲原水の細菌検査結果(白い斑点が培養された細菌)



▲水道水の細菌検査結果

Check! 3

水質基準など150項目以上を検査

浄水場やじゃ口(給水栓)から定期的に水を採取し、水道法によって定められている水質基準51項目を含めた150項目以上の検査を行っています。



▲浄水場やじゃ口(給水栓)から採取した水

検査項目には、細菌類、金属類、消毒副生成物、かび臭物質、農薬類などがあり、厳しく検査しています。

Check! 4

配水池やじゃ口の水を24時間監視!

給水区域内の配水池26ヶ所、お客さまのお宅75ヶ所に自動水質測定装置を設置し、色度、濁度、残留塩素などを24時間監視しています。水質異常を見逃さず、いつでも安全・安心な水道水をお届けしています。



配水池



お客さまのじゃ口



自動水質測定装置

COLUMN

世界で水道水を安全にそのまま飲める国は196カ国中11カ国

ご家庭の水道水の安全性についての意識調査では、「満足している」と「どちらかというと満足している」の合計は約90%となっています。この結果からも分かるように、日本では、じゃ口からそのまま飲むことができる安全な水道水が当たり前ですが、実は、世界で水道水を安全にそのまま飲める国は、196カ国中なんと11カ国しかありません!日本はじゃ口をひねるだけで安全・安心な水道水が飲める数少ない国の一つです。

11
196



「令和4年版 日本の水資源の現況(国土交通省)」(https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk2_000039.html)

「世界と日本のデータを見る(外務省)」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/world.html>)を基に作成